平成 26 年度　春期　システム監査技術者試験　解答例

午後Ⅰ試験

問１

出題趣旨
稼働中のシステムの中には，リリースから長期間経過して，システムの全体像を把握している開発担当者がいなかったり，改変を重ねて複雑になっていたりするシステムが少なくない。また，ドキュメントが整備されていなかったり，更新されていなかったりして，実際に稼働しているプログラムと不整合を起こしているシステムもある。このために，保守の作業を起因とする障害が発生したり，二次障害を引き起こしたりすることもあり，保守業務の品質確保が大きな課題となっている。 本問では，システム監査人として，保守業務の監査を行う場合に，このような保守の実態を理解して監査手続を設定し，実施する能力があるかどうかを問う。

設問	解答例・解答の要点		備考
設問１	ライブラリの指定範囲に漏れや誤りがないことを別の担当者がチェックしているか。		
設問２	修正箇所のテストだけでなく，修正プログラムの後続プログラムのテストも実施する。		
設問３	**記載すべきコントロール**	同様の原因による障害が発生するおそれがないかどうかを全システムに対して調査する。	
	障害報告書に記載すべき項目	障害の発生原因に応じた他システムへの展開の要否及び展開を実施した結果	
設問４	ドキュメントの内容に保守作業で必要な情報が網羅されていることを確認しているか。		

問２

出題趣旨
情報系のシステムは，有効な情報をタイムリに提供できなければならない。このためには，情報の質だけでなく，システムの利用方法に関する理解も必要となる。一方，情報には，機密情報も含まれるので，参照できる情報の制限も厳格に検討する必要がある。また，情報の管理レベルや情報の提供項目を変更する場合には，元情報を作成する上流のシステムも考慮して検討する必要がある。 本問では，予算管理システムを事例として，提供する情報の質，情報の利用方法及びその情報の管理について，システム監査人の立場から監査を実施する能力があるかどうかを問う。

設問	解答例・解答の要点	備考
設問１	一定金額以上の予算修正が入力できないようにする。	
設問２	予算項目に対応した会計データを基幹システムから全て取り込めるよう計画されているか。	
設問３	実績データの取込みが，月次決算後では遅すぎる可能性が検討されていないから	
設問４	情報の活用方法が理解できず，予算・実績情報が効果的に利用されない。	
設問５	権限マトリックスを閲覧し，機密レベルの高い情報の参照権限が適切に制限されているか確かめる。	

©2014　独立行政法人情報処理推進機構

問３

出題趣旨
従業員の業務生産性及び利便性の向上，端末導入コスト及び通信コスト削減などのために，BYOD（Bring Your Own Device）導入を検討する企業が増えてきている。しかし，当初想定していた目的を達成できなかったり，想定していなかったリスクが発生し，BYOD 導入を中止したりする企業もある。企画段階でシステム監査を実施することによって，BYOD 導入に起因するリスクが適切に認識されているかどうかを検証する必要がある。 本問では，システム監査人として，BYOD の監査に当たり，BYOD 導入によって新たに生じるリスクに関する知識，及びリスクに応じたコントロールとそれが存在しない場合の影響を識別する能力があるかどうかを問う。

設問		解答例・解答の要点	備考
設問１		旧型の機種を使用し続けることによって，Z 社が定めるセキュリティ要件を満たせなくなるリスク	
設問２	① ②	・モバイル端末を使用するためのパスワードなどの設定 ・モバイル端末内に保存されているデータの自動暗号化	
設問３		要員が常時迅速に対応できる体制を構築する必要があり，人件費が増加する可能性があるから	
設問４		BYOD に伴う制約事項や費用負担方針などについて，従業員の理解が得られていない可能性があるから	
設問５	① ②	・想定 FAQ を作成し公開する。 ・専用問合せ窓口を設置する。	

©2014　独立行政法人情報処理推進機構